【投　稿】

サルモネラの迷い道(7)

中　野　良　宣
（空知支部）

9．One Health (1)

サルモネラの特徴として、感染や保菌する生物種の広いことがあげられます。ヒトを含む哺乳類からハ虫類、両生類にも及び、原虫が本来の住処である可能性すらあります。これは、今、獣医師会が大きなテーマとして掲げるOne Healthそのものではないでしょうか…。しかし、サルモネラ症は「人獣共通感染症」と呼ばれることはあってもOne Healthというハイカラ!!な言葉の仲間には入れてもらえないようです。

One Healthという言葉は「新興感染症」や「再興感染症」と結びつくようで、まずその意味から勉強する必要がありそうです。怪しい解釈ですが、ここでは「新興感染症」は実態が未知で危険度が高い感染症、「再興感染症」は新たな社会情勢の中で再びヒトに危害を及ぼすようになった感染症とでもしておきます。サルモネラ症のような古い病気が悪さをすると「再興感染症」の方に区分するのでしょうが、ここには結核やペスト、コレラといったビッグネームが並び、サルモネラでは力不足（？）かもしれません。それでも*S.* Enteritidis（SE）による食中毒はここに入れてもらえる可能性があります。1990年代のSE感染の急増は養鶏の近代化に伴う種鶏供給のネットワーク化がもたらしたもので、保菌した種鶏が世界各地に配給され、卵からヒトへと広がり多数の感染者を出しました。業態の変化による新たな感染の形であり「再興感染症」の内に入れてもらえそうです。

しかし、現在ではまた様相が違います。SE汚染は制御されつつあり、ヒトへ脅威は薄れてきました。むしろ私には搾乳牛のサルモネラ症に対してこそ再興感染症という呼び名がふさわしいように思えます。元来それ程悪さをしなかったサルモネラが、酪農の近代化（高泌乳管理・農場の大型化）の中で病勢を変え、重篤な症状を示すようになったとすれば、再興感染症の定義に良く当てはまります。そこに運び屋として野鳥が関係でもするとなると牛にとってはまさにOne healthです。

ところで、すでに忘れられたことですが、2009年アメリカでサルモネラ症の多発が話題になりました。CDCのサーベーランスで検知されたものでカエルを介しての発生でした。このころ、ディズニー映画の「プリンセスと魔法のキス」が上映されており、その重要な場面で王女様がカエルにキスをしたらしいのです。少女たちがそれをまねてカエルにキスをしたからサルモネラが流行ったと誰かが言い、その説が流布しました。それが本当なら、これもアニメという新しい社会現象が引き起こした新興感染症でone healthの問題・・・？

10．One Health (2)

One Healthという考え方には随分と広い視野が必要そうです。多分、サルモネラ症が発生した農場では、ネズミたちも感染し、大変なことになっているでしょう。野生動物や環境にもサルモネラは拡散します。One Healthという視座からは、大小様々な規模の拡散と消滅が繰り返され、サルモネラのプールといったものが形成されていると想定されます。図で描くとヒトや牛での発生もその一角を占めているに過ぎないことになりましょう。牛の発生が直接ヒトの感染につながったという事例は知りませんが、もしそれを思わせる事例でも直接の関係ではなく、同じ感染源から別々の機会に感染してしまった可能性も想定する必要があります。

I市におけるSE感染症の発生状況はそんなことを思わせる例です。2000年代に入ると道内での搾乳牛のSE感染例は減少し、2001～2020年の間で15戸の発生に留まりました。I市は酪農家戸数が20戸ばかりの自治体ですが、そのような中にあって2010年と2011年に各１戸の発生が記録されています。同じく2011年には牛での発生に先立つ２月、学校給食のサラダを原因食としたSEによる集団食中毒が発生し大混乱を招きました。One　Healthの視座からは同一地域、同時期に３例のSE感染症が発生したことになります。それぞれに直接的関連は認めがたいので、地域全体の汚染度の上昇を背景とした顕在部分としての発生とみることが適当でしょう。

一方で、この考えは偶然のできごとを誇大に言い連ねているということもできます。しかし、One Healthの立場からは家畜も野生鳥獣もヒトも、一体として捉える必要性が浮かび重要な視点です。日獣会誌の昨年９月号には宮崎ワンヘルス研究会の取り組みが報告されていました。研究会の活動は重症熱性血小板減少症候群を主なターゲットとしたものですが、各組織間の情報交換の場として、また、橋渡し役となることが期待されています。そのような組織があればI市の事例は調査すべき課題と認識され何らかの知見につながったかもしれません。

リサーチタッコブ（栗山町字中里51－125）
E-mail：inuwanwa@sea.plala.or.jp